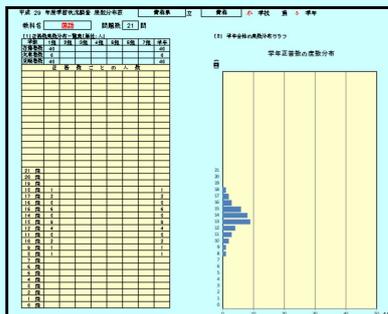


～児童生徒の「確かな学力」の育成に向けたさらなる授業改善を～

学習状況調査及び報告書の活用について

「多面的な分析のために」

平成29年度の調査から、集計表に「度数分布」や「自校の結果と設定通過率や県通過率の比較」のシートが付いています。自校の結果を入力すると自動計算されます（県の平均通過率は入力する必要があります）。



平均正答率のみによる分析から、シートを活用した**多面的な視点による分析**をしてはいかがでしょうか。また、今年度は質問紙調査を実施しました。児童生徒の意識を分析に活かすことも重要です。

「報告書には授業改善のための指導例があります」

報告書には、各教科の分析結果や、そこから見てきた課題に加え、課題解決のための指導例を各教科とも2～4例掲載しています。この指導例は**課題解決のため**だけではなく、新学習指導要領で示されている**「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善**を意識したものとなっています。各教科での活用はもちろん、校内研修等で共有を図るなど多様な方法での活用が考えられます。そのためにも、**ダウンロードして、すぐに活用できる**ようにしてはいかがでしょうか。

指導例
複数の資料を活用し、相手に分かりやすく伝える文章を書く力を高める指導
～単元名「道案内しよう～複数の資料を使って書く～（第4学年）～

【指導の流れ】
1 学習の見直しをたてる。
ある町の地図や写真、距離、時間等の複数の資料を基にして、初めて訪れた人に目的地までの道案内をするための必要なことについて話し合う。

【学習活動】
目的達成までの目的になる建物や場所を書くと分かりやすいと思う。それから、「まっすぐ進む」「右に曲がる」「左に曲がる」などの読み方についても書くといいわね。他にも道案内のために必要なことがあると思う。

「ます」「次に」などの順序を表す言葉や、「標高の低い」「標高が高い」などのおおよその距離や距離が分かる。道を導くためには分かりやすい言葉が必要だね。

ポイント
相手や目的に応じて、分かりやすく伝えるために必要なことについて、複数の資料を用い、既習事項や経験などを基に話し合わせる。

指導例
「図形」における実感を伴った理解と視覚的指示力を用いた指導の工夫
～単元名「形の形を調べよう（立方体と立方体）」（第4学年）～

【指導の流れ】
1 数値が分かった立体が、どのような形の面で見られているのか調べさせる。

【学習活動】 観察と対話しながら、仲間分けのひみつを考えようという問題意識をもつ。

「いろいろな面を2つの部分に分けています。」
「エは、Aの面です。どんなひみつがあるでしょう？」

【学習活動】 AからEの形を視内で複数分組し、面の形を紙に写しとり、どのような形の面で見られているかを調べる。

A 立方体だけで調われているよ。
B 立方体と正方形だけで調われているよ。
C 正方形だけで調われているよ。
D 立方体と正方形だけで調われているよ。
E この形は、長方形があるからAの面になっているのかな。

指導例
具体的な場面で、正負の数を用いて正しい式にし、自分なりに説明し、伝え合う力を身に付けさせる指導
～単元名「正負の数」～

【指導の流れ】
1 「前日比」についての意味を確認させる。

【学習活動】 「前日比」についての意味を式で表す。

「朝、テレビを見ていたら、図1のような字幕が出ていました。今日は昨日より気温が低いですよ。」

「今日は、昨日より気温が低い。なぜなら、前日比が、+2と書いてあるからです。」

「では、前日比とは、どういう意味か。あらためて説明してみましょう。」

「前日比って、今日は気温が高くなっているかという意味です。」

A市の前日比について、詳しく調べてみましょう。」

「今日の最高気温が20度で、前日比に比べて+2だから、今日は前日より2度高く、前日は今日より2度低い。よって前日の気温は、 $20-2=18$ となる。つまり前日は18で、 $(20-18) \div 18 = 0.111$ の式で表すことができるんだね。+2という数は、前日の気温が基準になっていて、2つの量の差を求めているんだね。」

ポイント
「前日比」についての意味を、言葉だけでなく、正負の数を用いた式と関連させることで、理解を深められるようにする。

報告書は県教育委員会のホームページからダウンロードできます。掲載先は<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/jyoukyouchousa.html>です。指導例は県総合学校教育センターのホームページからもダウンロード可能です。

「各学校ではこんな活用をしています」

調査や報告書の活用に工夫して取り組んでいる学校があります。自校では、**どんな取組が有効か組織的に検討し**、できることから取り組んでみませんか。

以下は平成29年度に実施した学習状況調査の活用アンケートの回答からです。

【小学校】

- ・校内研修で全職員が調査問題を解いたところ、児童のつまずきや改善策が明らかになった。
- ・通過率の低かった観点や領域について、年間指導計画に位置付け、継続して重点指導項目としている。
- ・報告書の「指導例」を印刷し、全教員で共有し、授業改善に活用している。

【中学校】

- ・弱い部分を引き上げるための指導方法の改善を検討することにより、取り組むことが明確になった。
- ・継続して分析しているので実態を速やかに把握できる。小学校と共有し、共通課題として取り組んだ。
- ・分析結果を保護者に伝えることにより、家庭学習の取組に効果が表れている。